

櫻名所

梅に似てはなはだ紅し、葉も樹の皮もまつたく櫻に異なることなし。此種東山泉涌寺悲田院にあり、然れども花いまだ貼す。是暖國の木、京地のさむき地へうつしたる故、木長せざるものなり。京師の緋植とは別種なり。予悲田院に過て目撃。

〔義演准后日記〕慶長十年正月二十日、櫻木百本程植之。當寺酔○醒花名所之故也。凡毎年植了、上古ハ櫻會トテ花盛ニ大法會被執行之。建武已來歟退轉無念々々。

〔山城名勝志〕葛野郡嵐山。在大井川南

〔雍州府志〕大井川葛野郡

嵐山 在大井川之西、曾言龜山院摸和州嵐山植千本櫻於山上、今又處々殘。

〔新千載和歌集〕春題玄らず

あらし山これもよし野やうつすらん櫻にかゝる瀧のしら糸

後宇多院御製

〔大和本草〕花木櫻略○中 吉野ノ櫻ハ古來今ニ至テ多シ。山谷ニ滿リ、麓ヨリ咲初テ、奥ノ院ノ峯ニ至リ、中道ト左右ノ谷ヤウヤク咲ツマク。其間一月アリ、盛ナル時目ヲ驚カス。東西ノ谷々數里ノ間櫻多シ。他處ノ花ヨリウルハシ、如此美觀恐クハ華夏蠻貊共ニアルベカラズ。其花立春ヨリ六十五日ヲ盛トス、寒温ニヨリテ少遲速アリ、皆單花ナリ、八重ハナシ、八重櫻ハ奈良ヨリヲコレリ。

〔拾遺和歌集〕春題玄らず

よみ人玄らず

芳野山きえせぬ雪と見えつるはみねつゝきさく櫻なりけり

〔江戸名所圖會十九〕隅田河堤 深堀橋にはじまり熊谷に至る行程、凡拾六里、是を熊谷堤と云。天正二年、小田原北條氏これを築たりといへり。御當家にいたり、官府の命ありて三圍稻荷の邊より、木母寺の際迄堤の左右へ桃櫻柳の三樹を殖させられければ、二月の末より彌生の末まで、紅紫翠白枝を交へ、さながら錦鏽を晒すが如く、幽艶賞するに堪たり。また莖菜すみれ、米菜げ、盛りの頃は、